

とうわ 藤和けんこう通信



2014年8月号 VOL.46

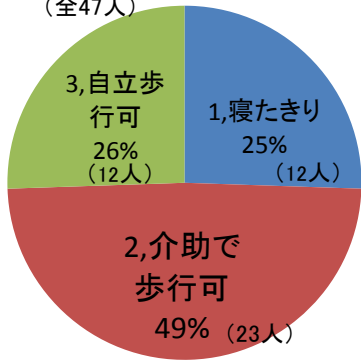
すべては施術現場から

発行元：藤和マッサージ（訪問マッサージ・はりきゅう）
相模原院042-855-0420 町田院042-851-7528 海老名院046-204-5482

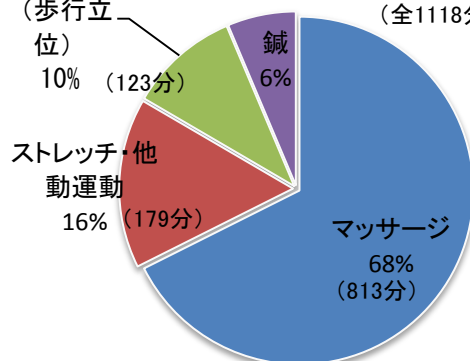
数字で見る!! 藤和マッサージの施術現場

今回47名の患者さんのご協力を頂き、施術の際にデータ集計者が同行しまして施術内容のデータ収集を行いました。これらをもとに、さらに施術サービスを高めて参ります。
集計期間H26年5月26日～6月14日 計47名の患者様の施術現場に集計者が同行し集計

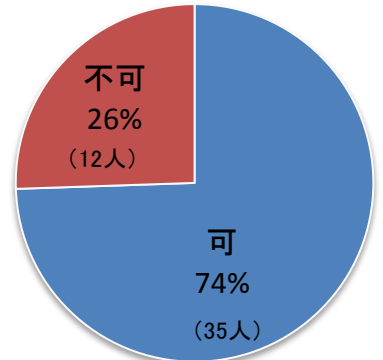
患者様の体カレベル (全47人)



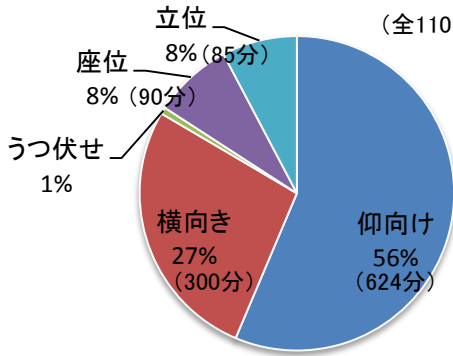
施術種類に占める割合 (全1118分)



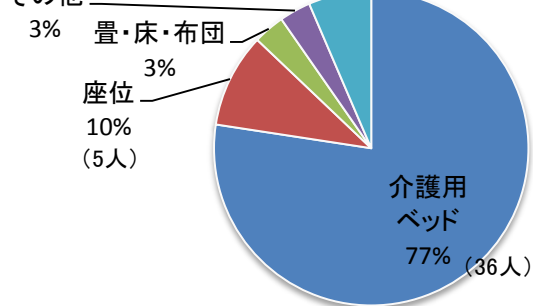
意志疎通 (全47人)
痛い痛くないと言える



施術時の患者様体位 (全1107分)



施術場所 (全47人)



女性からベテランまで



幅広いスタッフが揃っています!



須藤 新 長谷川加代 添田 真理子 板垣 鋭司 榎本多佳子 小木野真史 近藤マチ子 岩本友保 野田英次郎 石井 旭 笹川 龍司 若井清美



施術現場から 良かった点

『麻痺の右上肢を鼻に付けるのを目標にしましょう』と、具体的な目標設定を作って患者さんに伝え、納得頂いた上で施術する事ができていた。

施設職員さんから『以前より、足の力がついてきて立位が安定してきている』と言われました。

とても痛がっていた腰痛が鍼治療で最近良くなった。と本人から感謝の言葉頂きました！

ご家族向けに、自宅でできるストレッチや運動、また負担のかからない介助法の写真付きチラシを作ってお配りました！

素敵なお洋服ですねと声をかけることができました。とても患者さん喜んでいました。こちらも明るい気持ちになれました。

相手の目を見て、目をみつめて、両手で手を握ってゆっくりリルネームで名前を呼んで挨拶することができていました。



施術現場から 改善すべき点

- ①相手のペースに合わせて話をするように心がける。相手の話しのスピード・トーン・声の大きさと同じように話すように心掛ける。
- ②時間がなくても焦った様子を患者さんに決して見せてはダメ
- ③車の置き場、施設への入り方などの情報がカルテに記載されていない場合があり、急遽代理で行った施術スタッフがスムーズに入室できていない
- ④施術後には必ず布団を綺麗に直してから帰る。ベッドの柵も元に戻すことを忘れていたケースが有る
- ⑤患者さんの体への接触時間を少しでも多くするように、常に施術者の手は患者さんの体に触れているようにする。お話ししながらも、手を止めることなく施術をする。
- ⑥中枢神経疾患がなく、全身の体力低下の患者さんは積極的に運動を取り入れるにする
- ⑦介護用ベットは高さ調節可能なので、有効活用する
- ⑧もっともっと思いやりを持っていつも患者様に寄りそって、常に患者様の声に耳を傾ける姿勢を強くする 患者さんのことをどれだけ知っているか、結構知らない事が多いのでよく話を聞きだす努力をする
- ⑨施術時に名札がプラプラすることの改善案として、安全ピンで留めるようにする
- ⑩時計をみているところを、患者さんに見られ、もう時間がないからいいよといわれてしまった。さりげなく、きづかれないように時間を確認する事
- ⑪初めての訪問先で、携帯スマホで地図を確認しながら移動していたら、暑さで携帯が使えなくなり迷ってしまい、訪問先に遅刻してしまった。携帯が使えなくなることも想定してあらかじめ下調べする。

私たちは常に自分自身の施術を振り返ってさらに満足頂けるよう、反省・改善の取組みを継続して行って参ります。





広がれ認知症支援の輪 リレーでアピールへ

(2014年7月31日読売新聞)

認知症の患者やその家族、支援者らが、恵那—名古屋市間をリレーしながらたすきをつなぐ「ラン伴とも2014 恵那～名古屋」が10月5日に開催される。岐阜県恵那市の病院、福祉関係者らでつくる実行委員会の主催で、認知症を広く知ってもらい、患者や家族らの支援の輪を広げるのが狙い。実行委は「たすきをつなぐことで、認知症の患者やその家族らの絆も深まる。多くの人に参加してほしい」と呼びかけている。この取り組みを始めたのは、NPO法人「認知症フレンドシップクラブ」(東京)。認知症になっても新たな挑戦ができる社会にしたいと、2011年に北海道・函館—札幌間で始めた。12年には札幌—東京間、13年は大阪までゴールを延ばし、今年は7月12日～10月26日、道内や東北、関東、中部など各エリアを経て、広島までの約2500キロを走る。恵那—名古屋市間はその一区間となる。ラン伴開催のきっかけは、今年の大会。恵那市職員が、静岡県富士宮市を視察した際、市内のグループホームに入所する恵那市上矢作町出身の夏目佳明さん(80)と出会い、昨年10月にラン伴に参加、一緒に富士宮市内を走った。その際、夏目さんが「古里の上矢作を走りたい」と要望し、それに応え、実現させた。

28度超えたら冷房…若い人も油断せず

(2014年7月28日読売新聞)

熱中症は、体温が異常に上がったり、発汗による水分の不足で血液の巡りが悪くなったりして、めまいや頭痛、吐き気、筋肉の痛みなどが起きるものだ。予防で特に注意が必要なのは高齢者だ。気温の上昇を感じにくいいため、居間や寝室に温度計を置き、28度を超えたら冷房を使うのが望ましい。昭和大の三宅康史教授(救急医学)は「冷房が体に悪いと考えて使わない高齢者もいるが、近所の人や家族が気にかけて、適切な使用を促してほしい」と話す。気温が高い日中の外出は、なるべく避けたい。若い人でも、炎天下で作業をする場合は冷房の利いた休憩室を用意し、運動はできるだけ涼しい時間に行いたい。仲間同士で気を配り、めまいや頭痛などの症状が表れた人は、涼しい場所で首やわきの下、太ももの付け根を冷やす。重症化して意識を失った場合は、救急車を呼ぶ必要がある。

●熱中症予防のポイント

体温上昇を抑える	冷房を適切に使う※
	ブラインドなどで日光を遮る ゆったりした衣服を着て、襟元を緩める ぬれタオルや保冷剤を使う
水分を補給する	30分～1時間おきに水分をとる 食欲が落ちたらスポーツドリンクを飲む※
その他	体調の変化に周囲の人が気を配る

※印は特に高齢者で注意(三宅教授の話をもとに作成)

医療助成拡大、110疾患選定へ

(2014年7月29日読売新聞)

難病患者への医療費助成を広げる難病医療法が成立したのを受けて、厚生労働省の専門家委員会が28日開かれ、助成対象となる疾患を選定する議論が始まった。新制度は2015年1月から同年夏までに段階的に施行され、対象疾患も現在の56から約300に増やす。同省はまず、15年1月時点で対象となる約110疾患を8月中に選定する方針だ。

喫煙者率、初めて2割切る…消費増税で拍車か

(2014年7月31日読売新聞)

2014年のたばこの喫煙者率が1965年の調査開始以来、初めて20%を割り込んだ。4月の消費税増税に伴う値上げが、たばこ離れに拍車をかけたとみられる。調査によると、成人全体の喫煙者率は前年比1.2ポイント減の19.7%で、96年から19年連続で減った。男性は30.3%で、女性は9.8%だった。女性は初めて10%を割り込んだ。国内では、健康意識の高まりなどで喫煙者の減少傾向が続いている。喫煙者率に基づく喫煙人口の推計は、前年比136万人減の2059万人。

発行元

無料体験マッサージ、いつでもお気軽にどうぞ
【医療保険適応 訪問マッサージ・はりきゅう】